

平成31年3月一般質問(31年2月27日)

1. 六万石くるりんバス及びいっちゃんバスの効率的な運行について

- (1) 六万石くるりんバスの利用者の推移及び収支状況はどのようなですか。また、利用しやすい工夫や改善の取り組み実績はどのようなですか。
- (2) 六万石くるりんバスの効率的な運行について、今後の課題をどのように捉えていますか。また、対策をどのように考えていますか。
- (3) 一色地区の、いっちゃんバスの利用者の推移及び収支状況はどのようなですか。また、利用しやすい工夫や改善の取り組み(実績)はどのようなですか。
- (4) いっちゃんバスの効率的な運行について、今後の課題をどのように捉えていますか。また、対策をどのように考えていますか。

2. 福地南部地域活性化計画について

- (1) 福地南部地域活性化計画を進めるためのJA西三河との協議内容はどのようなですか。また、今後の協議内容はどのように考えていますか。
- (2) 市長の考える福地南部地域の活性化策は、どのようなものですか。また、サンテパークたはらのように、買い物とともに遊園地を含めた大人から子どもまでが楽しめる施設を、JAと協働で進める考えはありませんか。

3. 市有地の有効活用による西尾市の活性化策について

- (1) 西尾市の活性化のために西尾市歴史公園の二之丸広場を、市民によるイベントの開催場所として使用促進する考えはありませんか。
- (2) 市役所の多目的広場の有効活用を、どのように考えていますか。また、西尾市の活性化のために市民が自由に使えるイベントの開催場所として使用促進する考えはありませんか。

4. 行政の先進的な取り組み、特色ある取り組みについて

- (1) 先進的な取り組みや特色ある取り組みをしていれば、他の自治体から視察の申し入れがありますが、西尾市の視察受け入れの状況及び内容はどのようなですか。
- (2) 他の自治体にまさる先進的な取り組みや、特色ある施策と考えられる事業はどのようなですか。また、そのような事業の推進をどのように考えていますか。

(渡辺信行) 市民クラブの渡辺信行です。4議題 10 項目について一般質問を行います。

一昨日、平成 31 年度施政方針が述べられました。「多様性が輝く共生のまちづくり」を市政運営のスローガンとして、さまざまな事業の推進が挙げられています。言葉の中に、行政と市民が信頼関係で結ばれたチーム西尾市で、一つ一つの難局を乗り越えながら、17 万市民が未来に夢や希望の持てる西尾市を創生していくとされています。行政と市民の信頼関係も大切ですが、市長と職員の信頼関係も大切であります。意思統一を図り、行政が一丸となって市政に取り組んでいただきたいと思います。

また、「難局」という言葉がありました。難局とは、重大な問題で処理の難しい事態のことであり、その代表的なものが市民病院の経営改善、PFI事業であります。この2件については、全員協議会を何回も開催するほど重要案件となっています。PFI事業は、業務要求水準書の大幅な変更通知が提出されるなど、先行き不透明な状況であります。いつになったら解決できるのか、中村市長のかじ取りが注目されているところであります。平成 31 年度を臨むに当たり、安全・安

心なまちづくりとともに、中村市長の安全・安心な市政運営を期待しまして質問に入ります。

議題1 六万石くるりんバス及びびいっちゃんバスの効率的な運行について。

六万石くるりんバスは平成 18 年 12 月から運行を開始し、12 年が経過しました。目的は、主に高齢者や障害者など交通弱者の移動を支援し、社会参加の促進と地域の活性化を図るためのものであり、西尾駅を発着点として市内を巡回するコミュニティバスであります。運行ルートは、当初1路線でありましたが、平成 21 年7月から現在の3路線になり、午前8時から午後5時 50 分まで運行しています。営利を目的としているわけではありませんので、一定の赤字収支は理解できますが、利用者をふやす、利用しやすい工夫や効率的な運行は考えなければなりません。西尾市地域公共交通活性化協議会で、協議や公共交通計画の策定が行われていることは承知していますが、効果を上げるための取り組みについて質問いたします。

質問要旨(1)は実績をお聞きし、質問要旨(2)で今後の取り組みをお聞きします。

質問要旨(1)六万石くるりんバスの利用者の推移及び収支状況はどのようなですか。また、利用しやすい工夫や改善の取り組み実績はどのようなですか。

(地域振興部長) 六万石くるりんバス利用者の推移でございますが、現在の3路線となりました翌年度の平成 22 年度実績7万 7,900 人から、昨年度は 11 万 6,300 人まで利用が伸びております。そこから、毎年増加を続けている状況でございます。

収支状況につきましては、昨年度の実績で申し上げますと、運行経費が約 5,100 万円、運賃収入が約 700 万円で、市は運行経費から運賃収入を差し引いた約 4,400 万円を負担いたしました。一月当たりに換算しますと、約 370 万円となります。

次に、工夫や改善点の取り組みにつきましては、警察や老人会との連携により、運転免許証自主返納を促す乗り方教室の実施や、経路検索事業者との連携によるバス情報の見える化の推進を実施いたしました。また、運行開始からの利用者百万人達成記念といたしまして、昨年 11 月に沿線イベントにあわせた無料運行を実施し、さらなる認知度向上と新規利用者の獲得を図っているところでございます。

(渡辺信行) 今、答弁を聞いておりますと、利用者は年々増加しているということであります。3 路線とも1日平均で 100 人前後ということで、運行開始当時の倍ほどの利用者があり、一定の成果はあらわれていると思います。しかし、時の流れにあわせて常に改善は必要であります。

質問要旨(2)六万石くるりんバスの効率的な運行について、今後の課題をどのように捉えていますか。また、対策をどのように考えていますか。

(地域振興部長) 今後の課題でございますが、名鉄東部交通バス路線と重複している区間や、一方でバスの運行していない地域があることから、運賃体系の統一も含めたバス路線の再編を進め、わかりやすく使いやすい交通ネットワークとしてまいりたいと思います。

(渡辺信行) 再質問します。2月 15 日に公共交通活性化協議会が開催されました。報告事項、協議事項の中に市民アンケート結果の報告がありました。アンケートの内容及び結果を再質問で考えておりましたが、牧野議員の質問要旨を見ましたら、アンケート結果の質問がありましたので、この部分はやめまして、アンケートの内容はどのようなであったかお聞きします。

(地域振興部長) アンケートの内容でございますが、無作為抽出した 15 歳以上の市民、約 3,000 人を対象とした市民アンケート調査と、名鉄東部交通バスと六万石くりりんバスの利用者、約 1,400 人を対象とした利用者アンケート調査を実施いたしました。市民アンケート調査の内容は、日常での外出先や外出頻度、移動手段、バス利用の有無、行きたい場所、運賃の負担感、改善要望など 11 項目で、回収率は 41.9%でございました。また、利用者アンケート調査につきましては、利用目的や利用頻度、目的地、乗り継ぎ、運賃の負担感、改善要望など 10 項目で、回収率は 31.9%でございました。

(渡辺信行) 協議会での会長の言葉として、「生活する人たちの声を聞き、地域によって異なる生活実態に即した施策を進めていきたい」と述べてみえます。そのように改善していただくようお願いします。

次に、一色地区のいっちゃんバスについてお聞きします。

この件については、昨年の 3 月議会で質問をしました。いっちゃんバスは、一昨年の 10 月に運行が開始されました。昨年の質問の際に、思ったよりも利用者が少なく、市民からの指摘もされていると述べました。走らせて終わりではなく、常に現状を把握し、多くの市民に利用され、市民サービスにつながるよう考えていただくことを要望しました。1 年が経過しておりますので、検討され、ある程度の対策はされたことと思います。先ほどと同じく、質問要旨(3)は実績を、質問要旨(4)で今後の取り組みをお聞きします。

質問要旨(3)一色地区の、いっちゃんバスの利用者の推移及び収支状況はどのようなですか。また、利用しやすい工夫や改善の取り組み(実績)はどのようなですか。

(地域振興部長) いっちゃんバス利用者の推移でございますが、運行開始の平成 29 年 10 月から平成 30 年 3 月までの半年間で 1,756 人、月平均 293 人の利用があり、今年度は 4 月から 12 月までの合計で 2,161 人、月平均 240 人の利用となっております。

一方、収支状況につきましては、昨年度の実績で申し上げますと、運行経費が約 850 万円、運賃収入が約 10 万円で、市は運行経費から運賃収入を差し引いた約 840 万円を負担いたしました。一月当たり換算いたしますと、約 140 万円でございます。

また、工夫や改善点の取り組みにつきましては、ダイヤ接続を行っている名鉄東部交通バス一色線を乗り継いだ西尾駅、西尾市民病院までのお出かけ案内や、六万石くりりんバスと同様に経路検索事業者と連携したバス情報の見える化の推進を実施いたしました。

(渡辺信行) 利用者の推移を見ますと、本当に少ないです。昨年の 3 月議会で言葉にしましたが、運行開始の平成 29 年 10 月が平均 1 日 14 人で、最も多かった月です。翌月の 11 月は 13 人でありましたが、次の 12 月から 30 年に入って、昨年の 12 月までの 13 カ月の実績を見ますと、一月だけは 10 人に達しましたが、そのほかは全て 10 人以下となっています。五、六人の月が 5 月あります。空気を運んでいるようなものです。問題意識を持って協議会で協議はされていると思いますが、何か解決策を考えていただきたいと思います。

市民サービスはわかりますが、中村市長になってから運行したラインですので、よろしくお願いします。

質問要旨(4)いっちゃんバスの効率的な運行について、今後の課題をどのように捉えていますか。また、対策をどのように考えていますか。

(地域振興部長) いっちゃんバスの今後の課題といたしましては、商業施設への延伸が鍵となると考えております。この対応として、一色地区公共交通協議会において、既に実施いたしました一色地区の高齢者を対象としたアンケート調査の結果を踏まえ、ルート変更の協議をしているところでございます。

引き続き、問題意識を持って対策に取り組んでまいりますので、よろしくお願い申し上げます。

(渡辺信行) 利用者対策とともに費用対効果など、協議をお願いします。

地元の一色町の人からも指摘されていることですし、ましてや西尾や吉良、幡豆の人は実情を知らないから何も言われませんが、問題であることに間違いはありません。1日走り続けて五、六人は問題であります。以前も述べましたが、公共交通は地域の生活交通の確保や高齢者の移動、通勤・通学の利便性の向上とともに、市民が公平に利用できる公共交通体系の構築などを考えたものでなければなりません。そして、問題、課題があれば対策はスピード感を持って対応していただきたいと思います。

議題2 福地南部地域活性化計画について。

福地南部地域活性化計画は平成18年度から検討が始まり、平成22年度に活性化計画が策定されました。その後、国、県の補助金の見通しが無いということで、平成25年3月には活性化計画が断念されました。そして、同年7月に榊原前市長のマニフェストとして農業副都心構想が浮上し、JA西三河と協議が進められましたが、事業主体の問題などにより整備計画が白紙撤回となった経緯があります。平成30年度になってから、新たな福地南部地域活性化計画の検討に入り、現在に至っているわけであります。

質問要旨(1)福地南部地域活性化計画を進めるためのJA西三河との協議内容はどのようなのですか。また、今後の協議内容はどのように考えていますか。

(産業部長) 福地南部地域活性化のためのJA西三河との協議内容についてでございますが、福地南部地域は法規制から容易に開発できない地域であるため、現状の課題と解決策について検討をまいりました。解決策として考えた都市計画法第34条第2号の規定は、市街化調整区域内の観光資源を有効に活用するために必要な建築物の許可制度でございますが、旧来の農業副都心整備計画を検討していたころは、県の方針から、農業を観光資源とすることは認められておりませんでした。しかしながら、今年度、観光資源に対する県の方針が変わり、農業が観光資源として認められたことで、年間70万人を超える来場者がある憩の農園を農業観光資源として認められましたので、これを中心とする福地南部地域を観光開発区域として設定することで、JA西三河が考える開発が可能となってまいりました。

今後の協議内容については、JA西三河と福地南部地域活性化の方策について具体的な意見交換を行い、実現に向けて進めてまいります。

以上でございます。

(渡辺信行) 今の答弁ですと、観光開発区域として開発が可能になったということでもあります。この地域は市街化調整区域であり、容易に開発できないところを、観光資源にすることが認められたということで前進できるものと思います。

通告しておりませんが、再質問します。内容については、実現に向けて協議をするということでもあります。具体的にはこれからだと思いますが、確認のためお聞きしますけれども、事業内容案やスケジュール案というのはあるのかどうか、お聞きします。

(産業部長) 事業内容やスケジュールについて、具体的な協議は行っておりません。しかし、JA西三河から提出されました要望書には、農業体験ができる農園、地元の旬な食材の調理体験ができる施設、農業の多様な担い手と市民が触れ合う交流拠点という要望の記載がございますので、こうした施設の実現を目指していくというふうになると考えております。

(渡辺信行) 事業内容の協議はこれからということですので、意見を述べさせていただきます。

私が提案したいのは、子ども、家族が買い物しながら遊べる施設です。昔はデパートの屋上は遊園地となっており、家族で買い物に行き、遊んだものです。時代の変化により遊園地が大型化して、そのような施設がなくなりました。西尾市内には買い物をする施設はありますが、遊べる施設がありません。こどもの国はありますが、岡崎市の南公園遊園地、刈谷市の交通児童遊園、碧南市の明石公園のような施設が西尾市にあったらと思います。子育て世代の市長として、JA西三河と協働でのまちづくりを考えていただきたいと思います。

農業副都心構想においても、農畜水産業の活性化を目指して整備計画が策定されてきました。具体的内容として、食べる・買う・学ぶ・遊ぶ・見る、その他の構想でありました。それと類似ではありますが、私が考えているのは田原市のサンテパークたはらであります。

概略を説明します。農業をテーマにした体験型の公園で、動物と触れ合ったり、季節の花を楽しんだりして大人から子どもまでが楽しめる施設になっています。テーマがありまして、遊びとしてアスレチック、遊園地、水遊び広場、小動物園があります。見るとして、温室やガーデンがあります。食べるとして、レストランやマーケット、喫茶室があります。また、体験としてウイナーやパンづくり、野菜の収穫体験、そのほかにもフリーマーケットやイベントのできる全天候型多目的広場や体験工房などを備えています。レストランでは、地元産の野菜を使った料理を食べることができます。JAが事業主体でありますので、ぜひともこのような施設にしていきたいと思いますし、西尾市の観光名所の1つとして、西尾市もできる限りの協力をしてもよいと思います。市長にはぜひ、子どもを連れてサンテパークたはらに行ってみていただきたいと思います。

市長の福地南部地域活性化計画に対する思いをお聞きします。

質問要旨(2)市長の考える福地南部地域の活性化策は、どのようなものですか。また、サンテパークたはらのように、買い物とともに遊園地を含めた大人から子どもまでが楽しめる施設を、JAと協働で進める考えはありませんか。

(産業部長) 福地南部地域の活性化策については、先ほどの答弁で申し上げましたとおり、JA西三河が考える活性化策の実現に向けて進めていくことから、憩の農園を中心とした西尾市の誇れる農畜水産物の農業観光施設としての整備を目指してまいりたいと考えております。

また、サンテパークたはらのような、遊園地を含めた大人から子どもまで楽しめる施設につい

ては、今後の協議を進めていく中での参考とさせていただき、時代のニーズに対応した効果的な事業や施設整備を進めていただけるよう、JA西三河に協議の中で提案をしてみたいと思います。

（渡辺信行）今の答弁の中に、農畜水産物の農業観光施設という言葉がありました。多くの人に利用していただくことは大切ですが、私は水産物については慎重な考えであります。JAが主体でありますので、農業に関連した内容でいいと思います。地域に合った特産を、その地で生かしていただくことが西尾市全体の潤いにつながります。水産物の中心は一色のさかな広場、ウナギは一色、抹茶は西野町というふうに西尾市の全体のバランスを考えた活性化策でなければならないと思います。それぞれの地域で頑張ってみえますので、十分な調整をしていただくようお願いします。

再質問します。事業の推進に当たり、協働としてはどのような考えですか。

（産業部長）福地南部地域活性化事業をJA西三河と協働で推進するに当たりましては、大人から子どもまで1日じゅう楽しめる農業観光施設を目指していくとともに、事業の完了がゴールとは考えずに、JA西三河とは良好な関係を築きながら、引き続き福地南部地域の発展を支援してみたいと考えております。

（渡辺信行）市とJA西三河の協働とともに、市民との関係も考えなければなりません。西尾市の名所として期待される施設でありますので、市内外から多くの人に利用され、愛される施設になることを願っています。

そこで、これも通告しておりませんが、協働ということで思いつきましたので再質問します。JA西三河が主体でありますので、JA西三河が考えられることかもしれませんが、市民の声、思いは反映されるのかお聞きします。

（産業部長）議員がおっしゃられたとおり、愛される施設となるためには多くの方の声を聞くことが大切だと思いますので、JA西三河と協議していく中で提案をしてみたいと考えております。

（渡辺信行）よく財政的に厳しいという言葉が出ますが、市の発展や活性化につながる事業は先行投資も必要であります。将来展望を見きわめるとともに、市長の言葉にありました「夢や希望の持てる西尾市の創生」に取り組んでいただきたいと思います。

議題3 市有地の有効活用による西尾市の活性化策について。

昨年の12月議会の一般質問で、市有地の有効活用について質問しました。時間の関係で空き地に絞った質問でありましたので、今回は別の観点から2カ所を例に挙げて質問いたします。

1カ所目は、西尾市歴史公園の二之丸広場であります。この広場を市民の皆様にイベントの開催などで、もっと使ってもらう工夫を考えないかということでもあります。現在、設置及び管理に関する条例で、申し込めば使用できることはわかっておりますが、せっかくの場所が有効に使われていないと感じています。市民の皆様に気軽に使えることを周知して、有効活用に努めていただきたいと思います。イベントが開催されることにより人が集まり、その人に旧近衛邸や尚

古荘、資料館を訪れてもらえることで相乗効果が生まれることとなります。何よりも人が集まることによって、西尾市の活性化につながります。今年の7月には丑寅櫓の建設、土塀の整備に取りかかることとなっていますので、この歴史公園のさらなる集客に期待するものであります。

昨年、浜松城を訪れた際に広場でコーヒーフェスをやっておりました。幾つものテントが張られ、多くの人が集まってみえました。そのような風景を想像して質問をいたします。

質問要旨(1)西尾市の活性化のために西尾市歴史公園の二之丸広場を、市民によるイベントの開催場所として使用促進する考えはありませんか。

(教育部次長) 二之丸広場は面積 1,500 平方メートルで、全面芝生に覆われており、イベント開催や市民の活動の場として適していると考えております。二之丸広場の利用につきましては、広報やホームページ等でPRをしております。

また、今後は施設の有効活用を検討するとともに、各種団体とも利用方法について協議を進め、より多くの市民の方たちにも利用していただけるように検討してまいります。

ほかにも、二之丸広場に来ていただく、次に知っていただく、そして利用していただくことも必要と考えており、西尾市歴史公園を軸にした吉良氏 800 年祭事業や全国お茶まつりが予定されておりますので、そうしたイベントを通して多くの市民の方たちに来ていただき、施設を知っていただき、そして利用していただくことに結びつけていき、利用促進を図りたいと考えております。

(渡辺信行) 再質問します。先ほど、イベントを開催することで周辺施設にも訪れてもらえる相乗効果が期待できると言いました。その点も含めた活用について、どのように考えていますか。

(教育部次長) 議員のおっしゃるとおり、西尾市歴史公園には二之丸広場、旧近衛邸、周辺施設には尚古荘、資料館があり、イベントを開催することで各施設に来ていただくという相乗効果が期待できます。二之丸広場でイベントを開催する際には、単独で開催するのではなく、各施設を動線として結びつけ、相互協力のもとに事業展開ができるようイベント主催者を含めた関係者とも相談をしていき、考えていきたいと思っております。また、西尾城跡及び周辺整備の計画を策定する際には、多くの方たち、特に若い世代の方たちの意見も取り入れていくことで、将来に向けた西尾城周辺の整備を推進していきたいと考えております。

(渡辺信行) 2カ所目は、市役所の多目的広場です。芝生広場になっており、景観的にはよいのですが有効活用されていません。来庁者が多いときには駐車場として使う方法もあります。先ほどの二之丸広場と同じように、市役所が休みの日にはイベントの開催で使用してもよいと思います。イベント開催には、駐車場もあって最適な場所であります。

なお、管理要領が定めてあり目を通しましたが、使用目的や使用対象者を制限し過ぎです。市の機関及び市の関与する団体を対象にするなど、管理する立場の考えもわかりますが、もっと柔軟な対応をしてもらいたいと思います。迷惑をかけない責任のある使用であれば、許可するようにしていただきたいと思います。管理要領に従って使用許可をするのではなく、建設的な考え、柔軟な発想をしないと西尾市の活性化にはつながらないと思います。

質問要旨(2)市役所の多目的広場の有効活用を、どのように考えていますか。また、西尾市の

活性化のために市民が自由に使えるイベントの開催場所として使用促進する考えはありませんか。

（総務部長） まず、本年度の使用状況を申し上げますと、1月末までで、花ノ木保育園の親子遠足や花ノ木小学校の町探検など 11 件でございまして、使用頻度は極めて低い状況でございます。渡辺議員のご指摘のとおり、市有地の有効活用は大切なことでございまして、また市の活性化につながるための使用であれば、なおさらであるというふうに考えます。

今後、市としての使用方法の検討とともに、市民に使っていただきやすい方策を考えてまいります。

（渡辺信行） 1年間に 10 件程度の使用では、活用されていないということです。

今後、使用方法の検討、市民に使っていただきやすい方策を考えるということですので、よろしくお願いします。

なお、庁舎建設の際に公園庁舎として補助金を受けておりますし、設計の基本方針の中で、市民の憩いの場として多目的広場やお花見公園など、季節感のある公園広場を整備することとされていたと思います。また、ドクターヘリの離発着場になっているということは承知していますが、防災活動機能を確保しながら市民のイベント利用を可能にする場ともされています。

確認で再質問しますが、国庫補助としての事業の概要はどのような内容であったのか。また、補助金絡みで利用制限はあるのかお聞きします。

（総務部長） 市役所新庁舎の建設に当たりましては、先導的都市環境形成促進事業として平成 20 年度に 2,150 万円、21 年度に 5,210 万円の国庫補助を受けております。補助対象は外構・植栽工事などで、補助率は対象工事費の 2 分の 1 でございました。事業の内容は、樹木や芝生による緑化、せせらぎ、透水性コンクリート舗装の採用などにより、CO<sub>2</sub>及び熱の吸収源増加や省エネルギー化を図り、地球温暖化対策やヒートアイランド対策に取り組むものでございます。

したがいまして、補助金交付の目的でございます事業内容の維持が必要でありますので、例えば駐車場としてなど、多目的広場の芝生を傷めてしまうような利用方法は難しいものと考えております。

（渡辺信行） 多目的広場とともに広い駐車場も閉庁時の有効活用を図っていただき、活力のある元気な西尾市にしていきたいと思います。

議題4 行政の先進的な取り組み、特色ある取り組みについて。

市議会の常任委員会や会派で、毎年先進地へ視察に行っております。全国の自治体などが対象となっており、先進的な取り組みや特色のある取り組みを学んでいます。今年も委員会で 3 市、会派で 6 市を視察しました。視察内容については報告書を作成していますし、委員会については報告会を行っているところであります。

そこで質問ですが、西尾市の先進的な取り組みや特色ある取り組みはどのような事業であって、そして視察に見える自治体の状況や内容はどのようなか、お聞きします。



質問要旨(1)先進的な取り組みや特色ある取り組みをしていれば、他の自治体から視察の申し入れがありますが、西尾市の視察受け入れの状況及び内容はどのようなのですか。

(企画部長) 他自治体からの視察の受入れ状況といたしまして、平成 29 年度及び平成 30 年度1月末までの実績を申し上げます。議員行政視察が平成 29 年度5件、平成 30 年度 10 件、職員などの視察が平成 29 年度 11 件、平成 30 年度 10 件でありました。視察の主な内容といたしまして、PFI事業の見直しが4件と最も多く、次いで抹茶の地域ブランド化などの茶業振興関係が3件、佐久島振興の関係が3件などとなっております。

(渡辺信行) 視察の受け入れは、全国各地から西尾市に訪れていただく機会でありまして、何よりも先進的な取り組みをしているという評価を受けているあかしであります。私がここで言いたいのは、他の自治体の模範となるような行政運営に取り組んでいただきたいという思いであります。

視察先の内容を見てみますと、よりよいまちづくり、協働のまちづくり、地域の発展などさまざまな事業があります。PFI事業で混迷していることで全国から注目を浴びるのではなく、先進的な市として注目される市を目指していただきたいと思います。視察に来ていただくことは、受け入れ側としてもメリットがあります。西尾市を知っていただくこと、そして視察にいられた市から意見を伺うことにより事業の見直しにつながり、さらなる充実に結びつけられます。西尾市の行政情報をネットで見ますと、市独自の取り組みとして新たな官民連携手法、西尾市方式による公共施設再配置となっています。これは、現時点では懸案事項となりました。

もう1点、ふるさと納税に対する取り組みとして、寄附者が希望する事業の活用とあります。いずれも模範的な事業とは言えません。そのほかにも官民速報や全国市議会議長会の特色ある施策にも載っておりますが、これらを含めて西尾市の先進的な取り組み、特色ある施策をどのように考えているのかお聞きます。

質問要旨(2)他の自治体にまさる先進的な取り組みや、特色ある施策と考えられる事業はどのようなのですか。また、そのような事業の推進をどのように考えていますか。

(企画部長) 市ホームページの行政視察のメニューにおいて、公共施設再配置の取り組み、地域ブランド「西尾の抹茶」、市政経営品質改善運動を先進的な取り組みの一部として掲載しております。また、アートなどによる佐久島の振興や企業誘致に係る各種取り組みなども、他の自治体に誇れる取り組みであると認識しております。

このような取り組みは、あくまで地域の課題解決や発展に目を向けたものでありますが、その取り組みが評価されて先進事例ともなれば、多くの方々が視察に訪れていただけることにもつながります。このような事業を推進させるためには、市民のために効果的な事業を追及する中で、職員が果敢に先進性、独自性を挑戦する勇気を持って、またそれを後押しできる体制にしていくことが大切であると考えております。

(渡辺信行) 視察の受け入れは事務的に時間を要することですが、西尾市に来ていただくことは少なからず経済効果もあります。西尾市の知名度アップにもなりますし、全国に誇れる抹茶やウナギなど特産のPRにもなります。宿泊場所として駅前ホテルもオープンします。全国の自

治体から行政視察とともに、西尾市の文化や観光、そして食にふれていただく自治体になることを期待しまして、一般質問を終わります。ありがとうございました。